

## 書評に答えて

松井 広志

はじめに、本書を取り上げて頂いた市大社会学編集委員会と、書評をお引き受けくださった佐藤彰宣さんに深く感謝を申し上げます。大阪市立大学大学院（人間行動学専攻 社会学専修）は、私の出身大学院であり、本書のもとになった博士論文の提出先でもある。本書は幸いなことに書評や書評会の機会に恵まれた書物だが<sup>1)</sup>、上記の意味で、本誌に書評とリプライが掲載されることには他の媒体とは違った感慨をもつ。前置きはこれくらいにして、頂いた書評に答えていきたい。

まず、書評の冒頭に書かれた評者による本書の要約は、たいへん分かりやすい。本書は、文章自体は（何度も推敲を重ねて）なるだけ読みやすいようにと意識したものの、全体の構成や理論的な挑戦もあって、内容的には難解な部分を含んでいると思う。こうした本書の内容をしっかりと理解して頂けていることはありがたい。

次に、本書の意義について、「これまで十分に検討されてこなかった模型文化について、戦前—戦中—戦後—現代を結ぶ変遷を歴史的に記述している点」と「モノとメディアの関係の理論的整理・更新しようと試みている点」を述べて頂いている。歴史研究であることと理論研究であることの二重性は、本書を執筆するうえで最も苦慮したところなので、そのような評価は素直にうれしく思う。

また、応用的な読みとして挙げて頂いた、ギンズブルクによる「歪んだガラス」の分析によって形成される時代状況、および、シャルチエらによる「アプロプリアション」といった議論は、本書をより歴史社会学や社会史の文脈に接続する論点である。この両者の視点は、本書執筆時にはなかったものだが、なるほど、評者のご指摘の通り、模型製作の実践に際する雑誌・書籍の参照は「自作文化と読書」というテーマにおける重要な論点になりうるだろう。

一方で、評者が気になったところも3点ご指摘頂いている。第一の「事例と理論の応答関係」については、「本書は『歴史』『現在』という具体的な事例の記述に対し、第3部の『理論』の説明がどう応答しているのかが評者にはやや見えづらい」という感想を頂いている。この点については、上記ですでに「歴史研究と理論研究の二重性の苦慮」として少し触れたが、私も説得的に示せていると言えず、本書の弱い部分であるのは認めざるをえない。ただ、ひとつには評者も述べているように、終章で両者の接合を目指した。また、より根本的には、本書が（現在の社会学でよ

の) 定型化された構成, すなわち理論から事例へ向かう演繹的な論述スタイル, あるいは逆に事例から理論へという帰納的なスタイルを取っていない. 社会学はもちろん実証的な社会科学であるが, 同時に哲学をはじめとした人文学的な諸学問の伝統も継承している. こうした系譜にある研究のなかには, 理論と事例が不可分であったり, 事例から応用的に展開された思索へと至ったりする内容をもつ著作も多い. 本書が目指したのは(近年, 日本の社会学ではメジャーではなくなったかもしれない)このようなスタイルによる論述であった. そのため, 本書における「歴史」「現在」部と「理論」部との関係は, 事例と理論という言葉で端的に述べるならば, “「模型」という事例の分析を行ったうえではじめて, 考察する意味が浮かびあがってくる(あるいは, 「模型」という対象の分析を経由するというしかたでしか到達しえない)ような「モノのメディア論」という理論枠組のあり方を示した”ということになるだろう.

第二に, 模型と雑誌の密接な関係をめぐる, 雑誌というメディアの持つ意味について指摘を頂いている. 端的にお応えするならば, 本書では, 雑誌は資料として用いていて, 雑誌自体の媒介性を考慮に入れてはない. 換言すると, 雑誌「の」研究ではなく, あくまで雑誌(や他の資料群)「による」研究が, 本書であった. しかし, 評者も指摘されるように, 模型雑誌は模型製作の参考としてきわめて重要な意味を持ち続けてきた. その意味では, 上述された「自作文化と読書」のテーマとして今後展開されるべき内容だろう. また, 現在のメディア環境においてだが, 模型の場合は本書でも論じた『月刊ホビージャパン』などいくつかの模型誌は現在も続いていて, 模型と雑誌の関係は継続している部分も大きい. とはいえ, 他のメディア文化と同様, インターネット上のwebサイト, 特にブログやSNSにある程度は代替されてきているだろう. それに伴って, 参照点としての関連メディアとの関係も変わってきていると思われる.

第三に, アマチュアリズムについては, たしかに模型やそれと近いラジオや(戦前の)テレビジョンなどにおけるあり方と, スポーツにおけるアマチュアとは, かなり異なっている. 後者について私は詳しくなかったので, スポーツ文化論に通じた評者によるこうした違いの指摘は素直に興味深く感じた. この論点に関しては今後の課題とするほかない. それ自体を楽しむ「自己目的」なものとして設定されたのは同じにしても, スポーツ文化ほどには「結果として労働者を排除するイデオロギーとして機能した」とまでは言えないにしても, 模型製作がある程度の(時間的・精神的な)余裕がある人々を中心に担われてきた傾向はあるように思える. 端的に言って模型製作は, けっして高価ではないが, 材料(ある時期からは, パッケージ化された商品としてのキット)と工具, 製作場所, 何より手間暇がかかる行為だからだ. これは, 評者のいう通り「余暇」の問題に接続するだろう. また, 模型にある程度の「余裕」が必要なことは, 決して高級文化ではないにしても, サブカルチャーとも言えないような, あるいはポピュラー文化と言えるかも分からない,

模型を文化として捉えた際の微妙な性質にもつながる。さらにこの問題は、おそらく、メディア文化やポピュラー文化と余暇との関係を問い直す手がかりになるだろう。

以上、書評で頂いたご意見に順を追って応えてきた。インターネット、あるいはそれによる情報社会や監視社会が全面化した時代にあつて、「モノがメディアになる」しかたはどのように変わっていくのだろうか。あるいは変わらないのだろうか。やはりそのことが私の根本的な関心（のひとつ）である。TwitterやInstagramでは、数日前のこともすぐに流れ去ってしまい、数年前の出来事となると遙か（画面の）下までスクロールする必要がある。それに呼応してしまったかのように、社会でも過去のことを思い返したり、未来をゆっくりと構想したりする「ゆとり」が消えさってしまったかのように見えることすらある。

そうしたメディア／社会状況のなかにあつて、あえて、模型をゆっくりとじっくりと作りながら、そのモノの先にある過去や未来の「何か」に思いを馳せる…。こうした心構えはひとつの文化実践として重要であるし、さらに言うと、研究者として論文執筆している際の気持ちにも共通している部分があると思う。「今後の文化社会学やメディア史に新たな展開をもたらさう、示唆に富む研究」と評して頂いたことを胸に、これからも上記の模型製作のような姿勢で研究を行っていきたい。

## [注]

1) 『模型のメディア論』の書評・書評会は下記の通りである。

### 【書評】（掲載順）

からばた, 2017, 「世界で初めて「模型の持つ役割」を冷静に分析した本をキミはもう読んだか。」『超音速備忘録』<https://wivern.exblog.jp/27063703/>  
 松岡正剛, 2017, 「1648夜『模型のメディア論』『千夜千冊』」<https://1000ya.isis.ne.jp/1648.html>  
 坂田謙司, 2018, 「「モノとメディアをめぐる社会学的研究」を試みる」『図書新聞』3340号  
 小川博司, 2018, 「同人書評」『新社会学研究』3号, 209  
 西村大志, 2018, 「書評」『ソシオロジ』63(3), 104-108

### 【書評会】（開催順）

- ・2017年12月17日, 東京大学, 評者: 永田大輔・谷島貫太, 司会: 近藤和都, 主催: モノ・メディア研究会  
<https://monomediarn.wordpress.com/2017/12/19/レビュー:『模型のメディア論—時空間を媒介/>
- ・2018年1月27日, 愛知淑徳大学, 評者: 伊藤昌亮・村田麻里子, 司会: 宮田雅子, 主催: 愛知淑徳大学創造表現学会 <http://www.aasa.ac.jp/souzou/momp/archives/808>
- ・2018年3月19日, 大阪市立大学, 評者: 佐藤彰宣, 司会: 喜多満里花・ケイン樹里安, 主催: 大阪市立大学社会学研究会（本書評・リプライのもとになったもの）

上記の書評や書評会では、いくつもの貴重なコメントを頂いた。書評では、小川博司先生や坂田謙司先生といったベテランの社会学者・メディア研究者から、（本書評のような）自分より若い世代の研究者まで、それぞれの立場あるいは専門領域の視点によって異なる貴重な評価・コメントを頂けた。また、博学な知識人である松岡正剛さんに取り上げて頂いたり、「からばた」さん、あるいは、市大での書評会に来られた内藤良和さんといった模型製作者にまで読んでもらったことには、研究書（あるいは広く書籍）というメディアの波及力を改

めて認識させられた。本書の書評や書評会に関係して下さったすべての方に、この場を借りて感謝を申し上げます。

---

愛知淑徳大学創造表現学部 講師  
松井 広志  
hiroshim@asu.aasa.ac.jp